

佳作

ぬいぐるみの目線から

荒川区立第七峡田小学校六年

鈴木 陽菜

柳田先生、こんにちは。

私の読んだ「オットー戦火をくぐったデディベア」はオットーというくまのぬいぐるみの目線から書いたデビッド（持ち主）とオスカー（デビッドの親友）とのいたずらや戦争のことを書いたお話です。

私がこの本を読んで考えたことは三つあります。一つ目は、デビッドがユダヤ人として星をつけなければならなくなったところのオットーの「人は誰もが同じ人間なんですけどね」というところです。なぜならオットーの言う通り人種がちがつ

ても同じ人間なんだから差別しなくてもいいと考えたからです。

二つ目は、オットーが兵たいのたてになり兵たいの命を救ったところです。たとえぬいぐるみでも一人の命を救ったということが私がオットーならとてもうれしいからです。

三つ目は、オットーとオスカーがきせきの会えたところです。ぐうぜん通ったオスカーがオットーを見つけて買いとるとというのがオスカーがオットーを見つけて買うのは運命だったというように読んでいる私もとてもおどろきそれと同時にすごいと思いました。

私はこの本のオットーから見た人間や戦争について読んでぬいぐるみでもおかしいと思うことをどうして人間はやるのかなと思いました。そして

オットーと同じようにおかしいと思う人が増えればいいなと思いました。

く柳田邦男先生からのメッセージく

鈴木さんは、『オットー 戦火をくぐったテディベア』を読んで、感動したり共感したりしたことを、三つに分けて書いていますね。

本から感動したことがいくつもあつたら、このように「一つ目」「二つ目」「三つ目」というぐあいに、きちんと分けて書き出すと、自分でも頭の中が整理できるし、これを読む家族や友達にとつては、とても読みやすくわかりやすい文章として、よりよく理解されるでしょう。